

寛永諸家譜

清和源氏
支流 癸七冊之内

60

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186 (60)	
函號	特 76	1



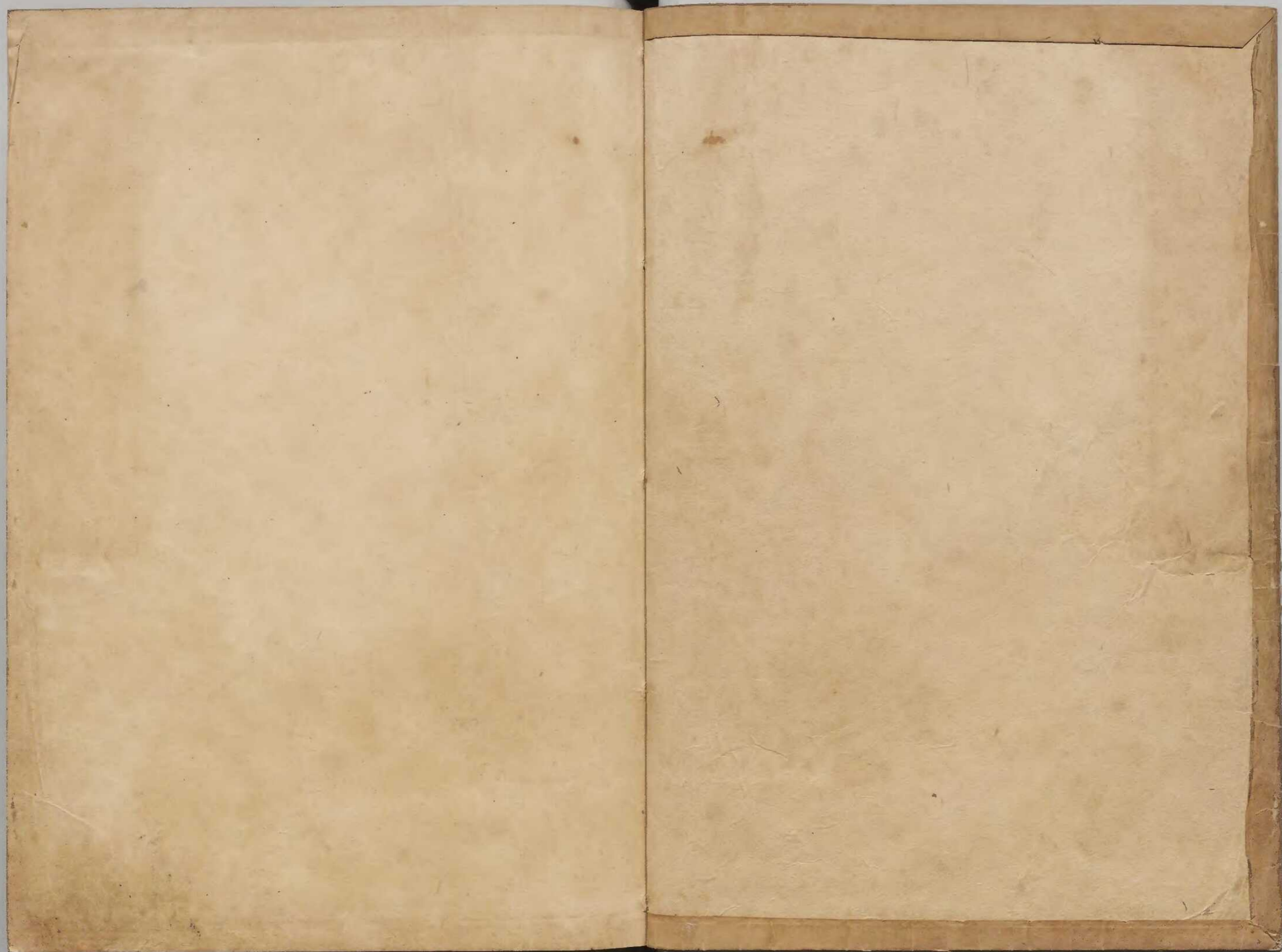
Kodak Gray Scale

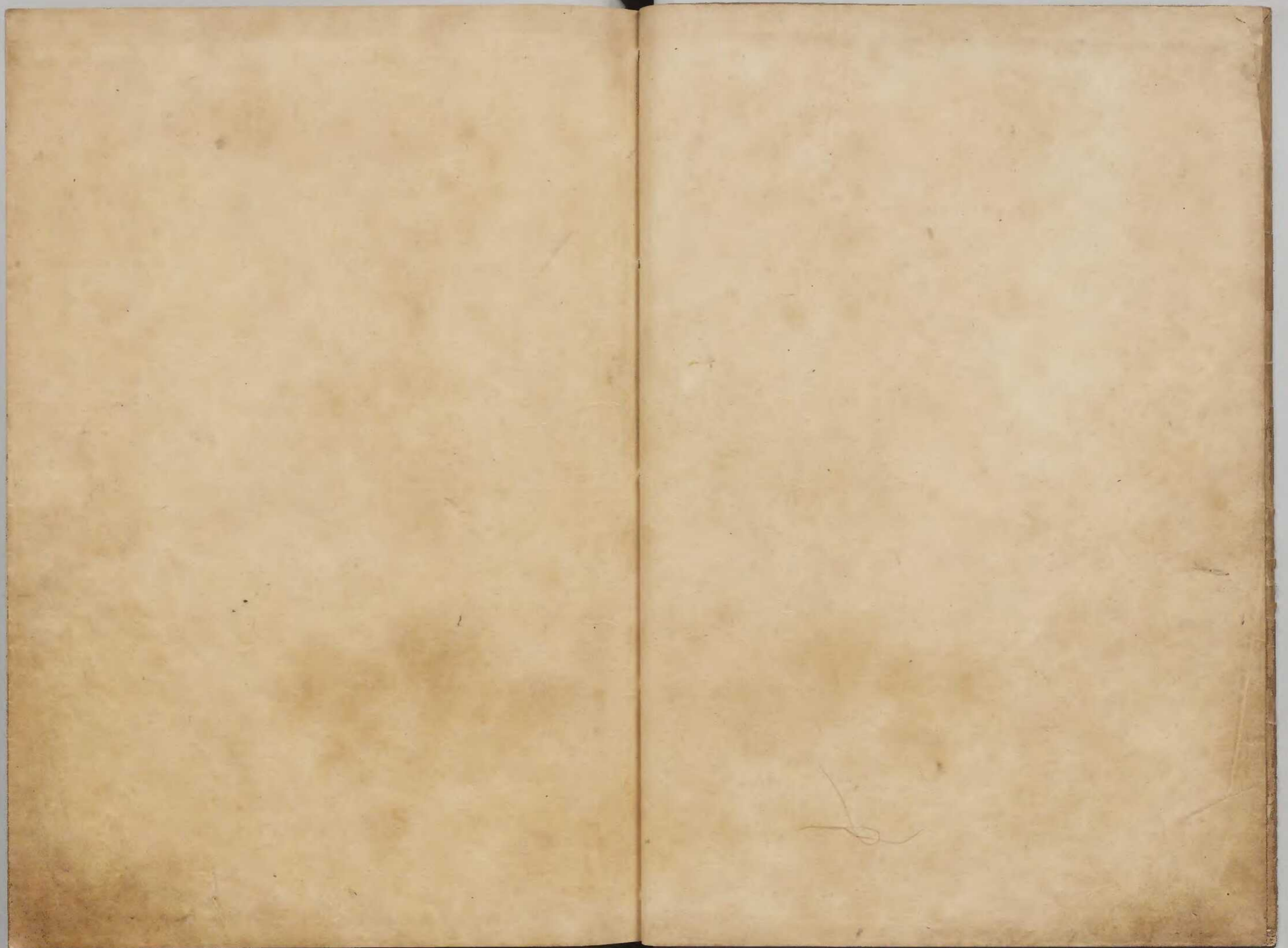
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM Kodak







稻垣 石丸 山下 正木 播矢 堀越 小泉 竹尾

寛永諸家系圖傳

清和源氏

卷五

淺草文庫

交流 稻垣

家傳いへでん小こ久く祖そ稻垣いながき三さん郎らう源重泰みなもとのもりやす
伊勢いせ五ご郎らう恒つね寸すんのの後ご流りゅう文明ぶんめい年ねん仲ちゆう小こ
三さん列りつ牛うし久く保ぼ小こ三さん郎らう恒つね寸すん

重賢ちゆうけん

後助

三列牛久保小恒寸

享祿元年三列吉田の兵牛久保為一
出張のとき重賢防我して産女塚を
討死時一年二十六 法名善心

重宗

後助 平右衛門 恒吉 同前

永祿四年四月十日牛久保に兵思治の
兵とおたより内牛久保の兵小銀かりと
しよも重宗よく風呂搦小つりて防我

して切河のいとき今川氏貞感状とさぐ
曰五年二月後列の兵三浦右衛門変富永小
出張して三列へいしんとす重宗先
かげりて廣瀬川の邊ゆき敵一人を
いしり時一敵斃るすすみ出さす
重宗力我して絶え敵人をはきたす
曰年七月二日後列の兵三列の兵富永
廣瀬小おわく合戦のとき重宗絶せり
せく敵一人をいしり

氏連

同年九月廿九日三列八幡合戦の時重
宗我功をくけりて敵の首級あり
氏真感状をくけり
文祿三年と列せり死す 宗七十八法
道善

林四郎

牛久保小居領一七牧野右馬允成定小居
一七一七びくみ軍功あり

東照大権現を名を因侍なむく 石出さへ

永祿四年思治小春作一七六十貫の地
を始り 以ふれて在澤の松平と野分
小居一七同年九月廿三列大塚を氏
真と合戦の時敵一人をくけりて敵首
の級をくけり小居の氏真共務殿新平
小居一七もて死す

系

は六郎

牧野吉馬（吉馬の）元小属（小属）して牛久保小領也
永禄五年三列野田の城を討死

長茂（ながしげ）

友助 平右衛門 恒和回前

永禄五年五月八日富永の戦場小とて

長茂鎧（よろい）底（そこ）をわしあは

曰年九月廿九日三列八幡合戦小首（小首）一級

と坊よりけし以長真書（まこと）を牧野吉馬に

小とてわて長茂が軍功を双なりいよて勇
をさしげますぐ一と、そのち成定

大権現小属（小属）しきりとき牧野吉馬の忠願

治部（しよ）同掃部山本常房（常房）なりび小と茂也

五人ののり小領く沖並糸のさしひと

なりて忠告（しゆかう）よて宅地（たくち）を給りて流をる

曰九年十月廿馬元海定死して子嫡子新

次郎康海是流を流く時小山本常房

と長茂が父重宗と大久保七郎右衛門と

言上ことば一ひとよりよりをを康成やまがら幼よ少すてて家いへ未ま年ねん老らた
りり孫まごががくくいい寛かんああ小こ右みぎ出でされれ一ひと人ひとのの言こと
一ひと人ひと康成やまがら一ひとははけけををたたまましし

大権現おほいかりをを因よてて所ところ持も向むかへへ一ひとつつけけまます
おおししららももああ一ひと人ひと康成やまがら小こ志しるるががひひくく牛うし條ぢょう
歸かへりりてて留とどすす

天正四年八月

大権現おほいかりをを別べつ流りゅう訪ぼう系けい一ひと所ところ出で陣ぢんのの内うち松まつ平へい
甚た太た新しんななししひひ小こ右みぎ馬ま乞ぎ康成やまがら 比ひ小こ海うみ

留守番るすばんをを勤つとめめ長なが茂しげ是こゝ小こ志しるるががひひてて曰いすす
年ねん二に月げつ小こいいししるるはは勤つと番ばんすす曰い年ねん後ご列れつをを
大おほいいげげ給たまふふとときき小こ康成やまがら 休やすままかからら
是こゝてて後ご列れつ興きよう國こく寺てらのの城じやうををままももりりとと茂しげ是こゝ

小尾こび寸すん曰い七しち月げつ

大権現おほいかり甲か列れつ新しん府ふ小こ條ぢょう氏し連れん少す御ご對たい
陣ぢんののとときき相あ列れつののももととししてて是こゝのの陣ぢん
禁ふ小こととししてて天あま神かみ川がは乃な右みぎ城じやうををああららへへ
長なが茂しげををおおももてて是こゝををままももりりとと茂しげ是こゝををままももりりとと茂しげ是こゝ

月乃後殿初世院 比小治くも茂小か

つて是をまもりついでとき康成なりび小

久指三島なる 約令せうけ給て夏列

抵戸乃より出をまよりて垂山のおえ

とかりも茂治て康成小属寸日十月小

條和をこく油津

大権現後列も久保乃城をさけきたまひ

も茂小命してまゝもたもも茂

抵戸よりも久保小いりて是をまもり習

年十月右の城を康成りたまふ

日十八年

大権現開東沖入玉のとき長茂 而出

もて下指必寺恩村と指必新川桐原

少くこころの領地をたまふ

慶長六年上列伊勢崎より一可るを給ふ

日十二年 比小川で伏見乃城とあり

三年の頃のしつ巻を勅む
日十七年死寸 歳七十日
法名尚養

重綱ふゆみ

後助

平右衛門

従五位下考ごわけ

播磨守つのもり

三列三つり

慶長十二年ちかながにじふにねん父ちち長なが小こ子こらららら伏見ふし見北きた

城しろととままらら本ほん三さん年ねん

同十七年どうじゅうしちねん信のぶ小こ子こらららら長なががが是こゝ邊へと

つつとと列り伊い珠せ崎さき守しゅ守しゅ

元和元年げんわげんねん大坂陣おおさかじん乃すなはとき酒井さか左さ衛ゑ尉ゑう

同日どうじつ細ほそ少し敷しき向むかもも五月ごごげつ七日にち天王寺てんわうじ邊へ

小こををひひくくたたららしし重おも綱なづ左さ衛ゑ尉ゑうがが後ご陣じん小こ

阿ありり河か小こ見みもも松まつ平ひら丹に波は守しゅ敵てきとと戦いくさてて旅りよ

ととかからら重おも綱なづ左さ衛ゑ尉ゑう乃すなはちち先まへ陣じん小こ駈かすす

ひひとと白しろ纒もろををりりけけらら敵てき一ひと人ひととと討うちちしし

首かぶをを執と寸すん丹に波は守しゅとと此こゝ交ま禮れいととななりりて

白しろ徳とく院いん殿でん一ひととと寸すん翌あした年ねん越こ後ご必かならず列り陣じんとと

ひひてて二ふた万まん石いしををたたももしし

同六年どうろくにねん越こ後ご必かならず神かみ原はら郡ぐん少すくくく三さん子こ石いしの

河加増をね領す

曰九年 仍小領く大坂沙城常安守番

を勤む

寛永三年 従五位下小叙一 橋津守

一 河守

別表

平助 生島後河

牧野右馬允忠成一 属守

元和元年 大坂陣の時忠成組より殺向

一 甲士一人をうらとり 河津陣の後

二條の城あり 重細重大と曰時小

大権現をね一 守り

重大

海七郎 従五位下 若狭守 生島上野

寛文十二年 重大十四歳より

台徳院殿より一人守り

元和二年

台徳院殿の仁小徳く

將軍家より法之寺ら

寛永三年從五位下三一叙三若狭守

了三可三寸

同十年泚書院番乃三取三と三なる三是三より三あ三さ

きたびく三家地三乃三泚加増三り三て三之三より三

と領寸同十一年三之三より三乃三加増三と領三り三て

之三より三と領三地三寸

寛昌三

後助 生息上三増三

寛永十二年甲戌三歳三廿三二三 法名良徳三

茂門三

平之部 生息三越三後三

寛永九年八月十五三衆三少三く

將軍家三を三為三禱三一三寸三

火のしんまがのまろ
家紋善荷丸

政次 まさつぐ

善右衛門

美之河善次

政吉 まさきち

善右衛門 まさ
善次の家 まさつぐ
美之河

稻垣 いなぎ

大権現小法之書

改重 かへしむ

善太夫 生息回あ

天正十三年より

大権現一法人よりそのら

台徳院殿

將軍家一石法のより

正利 せいり

清太夫 せい

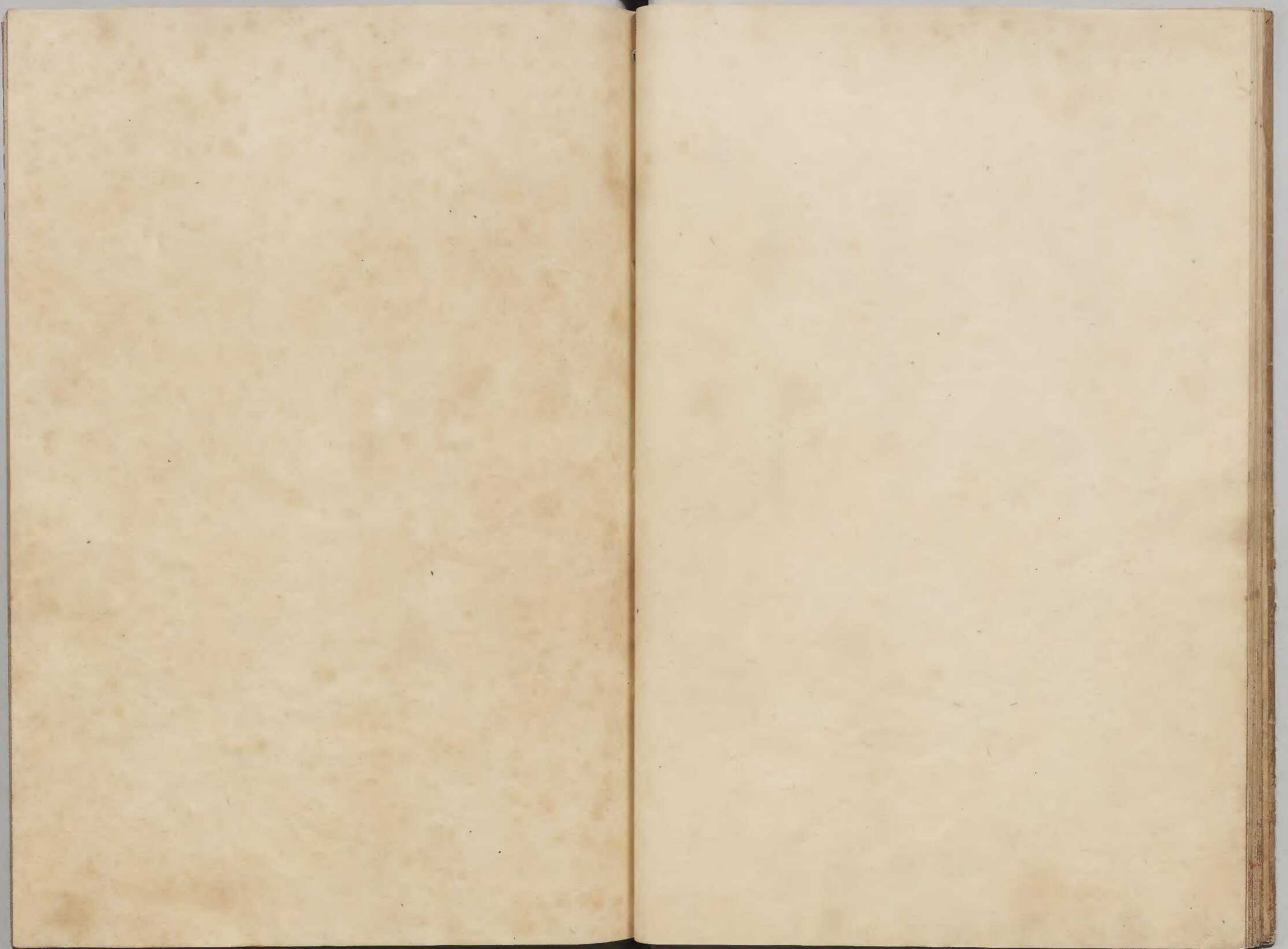
生息の氏の院

元和六年

台徳院殿を物のよりそのら

將軍家一法のより

このしんがのしる
家致養荷丸



● 忠重 ちゆうじゆう

稻垣 いながき

友成 清康

ともなり
清康君

生息之列

あつた
廣忠卿 のり 法之寺

俊忠 とんちゆう

友五郎

生息同前

廣忠卿ひろたけのきみなりびふ

大権現おほごんげん一法いっぽう人ひとなり

慶長十八年十月廿日おのころ病い死し六十七歳

忠豊ちゆほう

本もと名な為な 生なま必かならず回まわり

大権現おほごんげん

台たい徳とく院いん殿でん小こ法ほふ只ただなり

元和七年七月廿日しんじ病い死し六十七歳

豊重とよしげ

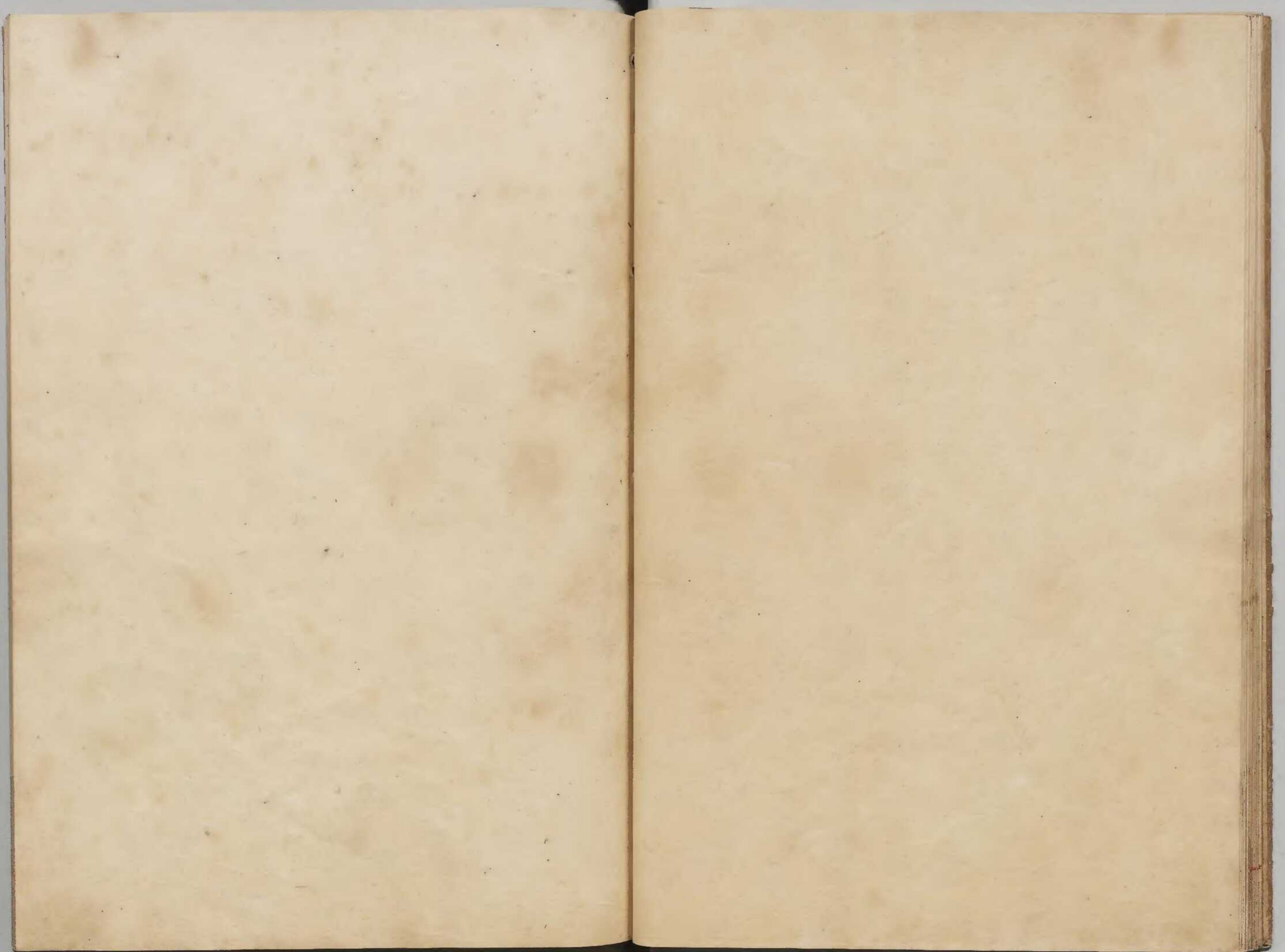
坂さか大おほ清きよ門かど 生なま必かならず武ぶ苑えん

元和八年十月

将しょう軍ぐん家けをたもてたもつつ一ひとなり

曰九年正月より御番ごばんを勤とこむ

家い紋のり丸まる乃なり内うち豊とよ重しげ



有忠

石丸

善友

生玉銀列

伊織乃うら甲より西橋持なる友

居頃寸を後没落して鳥屋尾石見守を

たのむ伊織乃玉司(属寸右乃)み

ふら石見守子是左京を頼子と寸

有次

大東進

生息回あ

石丸若夜(若夜)子(子)つる小(小)うら(うら)烏(烏)屋(屋)尾(尾)を(を)切(切)り(り)あ
石(石)丸(丸)と(と)号(号)し(し)家(家)傳(傳)小(小)烏(烏)屋(屋)尾(尾)を(を)受(受)承(承)成(成)なり
伊(伊)織(織)乃(乃)必(必)司(司)旗(旗)下(下)り(り)秋(秋)山(山)と(と)い(い)ふ(ふ)の(の)進(進)宗(宗)
ら(ら)國(國)司(司)名(名)代(代)と(と)し(し)て(て)有(有)次(次)教(教)向(向)一(一)大(大)和(和)
境(境)中(中)多(多)郡(郡)と(と)て(て)五(五)合(合)乃(乃)と(と)き(き)討(討)死(死)時(時)に
二十(二十)五(五)歳(歳)

有次

孫次郎

生息回あ

伊(伊)織(織)乃(乃)必(必)司(司)一(一)属(属)せ(せ)り(り)と(と)き(き)同(同)必(必)也(也)時(時)と
い(い)ふ(ふ)の(の)國(國)司(司)小(小)う(う)ら(う)ひ(ひ)く(く)小(小)う(う)ら(う)り(り)羽(羽)野(野)と(と)い(い)ふ(ふ)五(五)合(合)
乃(乃)と(と)き(き)必(必)司(司)此(此)先(先)也(也)(使(使)小(小)心(心)を(を)注(注)意(意)せ(せ)
下(下)知(知)一(一)首(首)尾(尾)を(を)あ(あ)り(り)し(し)必(必)司(司)存(存)在(在)の(の)時(時)より
織(織)田(田)常(常)夫(夫)(属(属)一(一)常(常)夫(夫)秋(秋)田(田)(配(配)流(流)の(の)時
まで(まで)は(は)ま(ま)り(り)し(し)る(る)べ(べ)し(し)

東照大権現よりと使じて牧野潜波も康成

常真トクマ一これ常志トクシつぎトクシの志トクシ

も御ミコたつツあつアツふフつツきキ有定アツタマのノ極ツク子コくり

くクりリとトなれレハハ文フミ禄ロク元ゲン年ネン小コ石イシ出デるル

慶長ケイチャウ之ノ手テよりヨリ病ヤマイ阿アふフ小コよりヨリ籠カゴ居イのノ男ヲ

となりナリ時トキ毎マとト号ガクすス

寛永ケンエイ八ハチ年ネン病ヤマイ死シ八ハチ十ジュウ五ゴ歳サイ

源

与ヨ五イ尺シヤク透トウ 生ナマ息イキ回マエあ

慶長ケイチャウ元ゲン年ネン

大権現オホケンゲン一ヒト法ホウ也ヤ也ヤ

西遊

揚ヨウ三サン郎ロウ 生ナマ息イキ後ノチ列レツ

元和ゲンワ元ゲン年ネン

大権現オホケンゲン一ヒト法ホウ也ヤ也ヤ

定改

大兵衛

生玉御別

慶長二年

大権現(石)にたてられ物つ得寸

同五年

台徳院殿(石)にたけりり

大坂西陣小牧まきの陣内近頭信成組の之

首尾まひをあり寸

寛永元年

將軍家を物つ得り寸

定改

坂元

生玉御別

寛永二年

將軍家(石)にたけりり

同六年十二月たごにたけりりにたけりりにたけりり

了り寸後に了り寸見守といふこじ

定感

市之丞

生父同家

寛永十三年

將軍家（法久の家）

有者

於六郎

生父同家

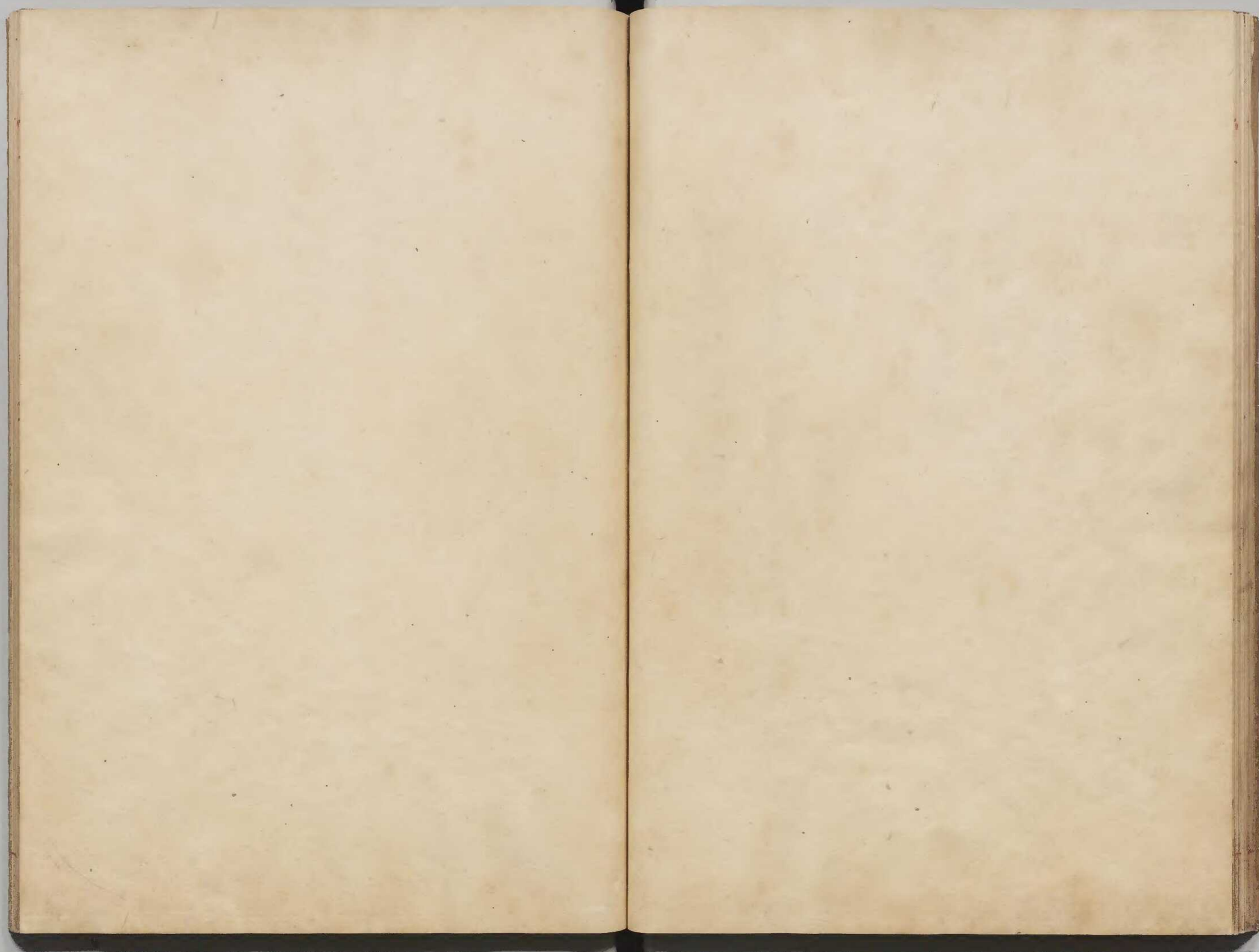
祖父有定が養子として入定改姓となり

慶長十七年入定とされて

大権現（法久の家）

大坂西陣小徳奉行

家紋 上羽蝶



山下

系 系

弥荒

又五郎

生息 信列

正綱 正綱

弥荒

又助

生息 三列

清康君 清康君 一法子

細義 こゝろ

弥菟

又十郎

生島河村

ひらきのまき
廣忠郷下しげ法り又り三つ坂

東照大権現あづま小法こ又り寺てら二に列り安祥やすむら小こ又り寺てら

うらた

細元 こゝろ

坂八郎

大権現おほ小法こ又り寺てら二に列り安祥やすむら小こ又り寺てら

ちた

細次 こゝろ

与三兵衛

細重 こゝろ

長十郎

次正 つぎ

十更

正勝

与之兵未

義勝

弘茂 庄吏 生息三列

大権現ノ法久ノ子ヨリ用原ナリトシ小坂御陣トシ

了供有寸

寛永四年十月廿五日病歿時一七十歳

法名道仲

圓勝

弘茂 生息三列

慶長九年

大権現を御詣一了

曰十年御杖持方を了

曰十二迄武列數郷の内小を以て領地

と御領寸

曰十九年家地乃御加増を了

大坂御陣小供有寸

元和二色

大権現大権現費費沖沖の後

台徳院殿台徳院殿より決決入入りりそそももいいる

曰年

台徳院殿台徳院殿沖沖とと海海ののとときき供供を

曰五年

台徳院殿台徳院殿沖沖とと海海ののとときき供供を

曰六年

東福門院東福門院沖沖入入りりののとときき供供を

一一列列寸寸

曰年このふし上上総総國國教教郷郷のの内内よりよりととひひてて宗宗地地を

加増加増したまふ

寛永四年寛永四年 伯伯をを加加りり小小十十人人組組のの頭頭

とかり

曰九年

台徳院殿台徳院殿沖沖地地界界後後

將軍家將軍家より決決入入りりしし年年金金銀銀をを法法士士

よりよりととひひてて宗宗地地をを加加倍倍しし給給ふ

曰十年曰十年甲甲列列寸寸よりよりととひひてて宗宗地地をを加加倍倍しし給給ふ

孝

曰十六年 命命ありて後別清水の和
ふの頭となり別同心五十人を以て
後河下とひく食禄の加増を給ふ
合子六百五十するなり

忠者

天啓又右部貞賢が妻

自采助

庄重

生息武苑

女子

三端小江清元京が妻

女子

鈴木長江政重が妻

昌勝

市匠

生息武苑

寛永十一年五月

將軍家を納し

曰十五年御書院番と勤じ

系系が

同十七年御扶持方を給分

白馬一り

家紋丸の内一太巴三頭そのまゝ
丸の内
一太巴
三頭

● 重信

正木

初を五十嵐後小重度が見本多大隅守
小流久て正木氏となる

五十嵐孫太夫

生必相列

小條長直小流久小條家没落乃後浪人

とかなり

元和三年三月十日六十五歳少く病
死ヤシキリテ法名丁雲

重慶チウキョウ

依た邊

生還回ナマヘ

重慶孤となりて見小なりそまなり足

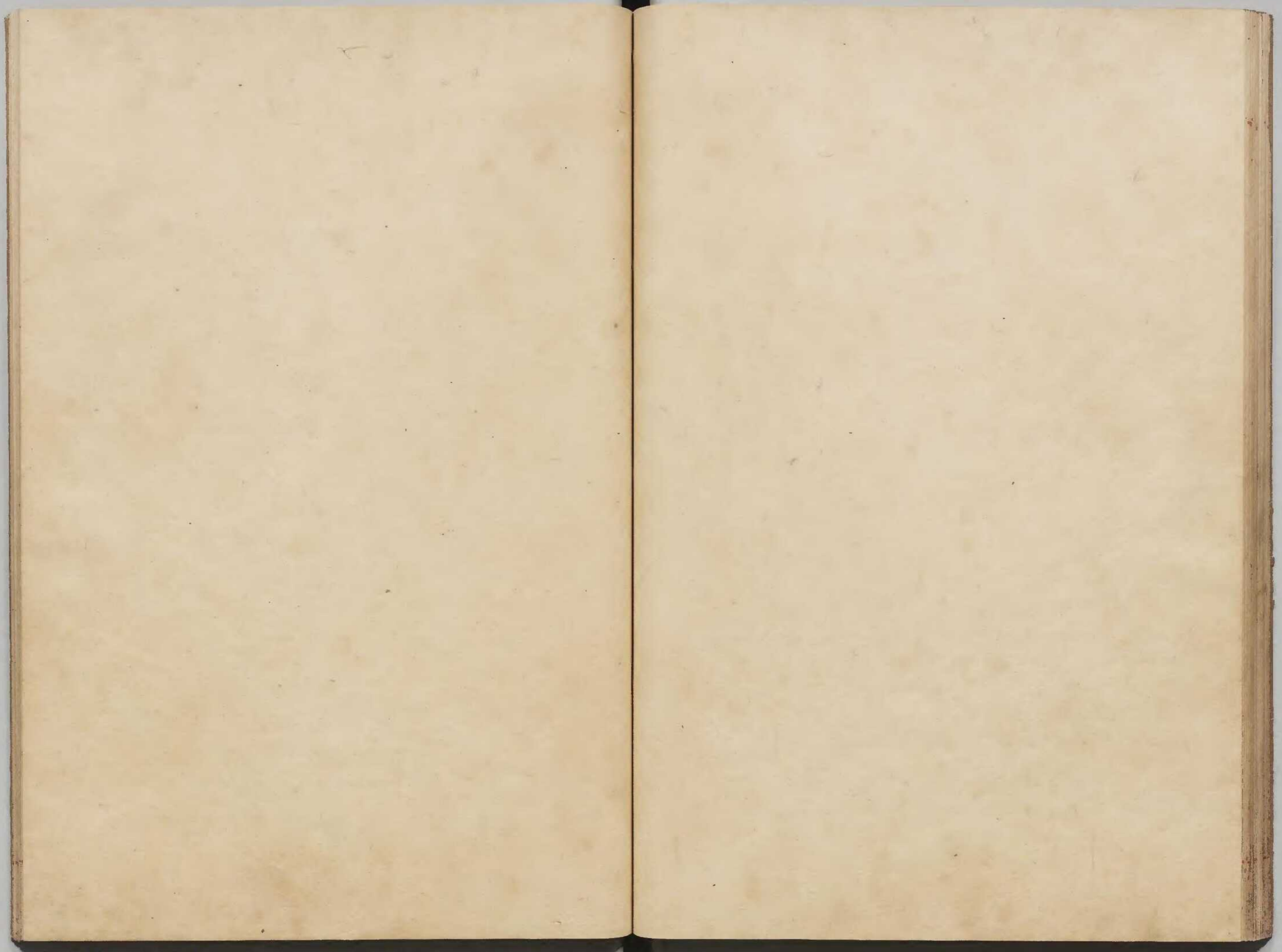
かみ字正本を称号とす

寛永三年

台徳院殿と稱濁一なり治りて物比

系な孫太郎組小属な寸

家紋そのしんすゐ辨



揚矢 ちや

系 ちや

甚五兵衛 ちや
織田信長 ちや
一法 ちや
之後 ちや
小本 ちや
多中 ちや
書 ちや
小房 ちや
寸 ちや

生息 ちや
名 ちや
列 ちや

系

長宗 ちや

生息 ちや
同 ちや
名 ちや

今川氏貞小法之後小

東照大権現小法之尊象

利政

槍兵未

集回

台院殿を指端一

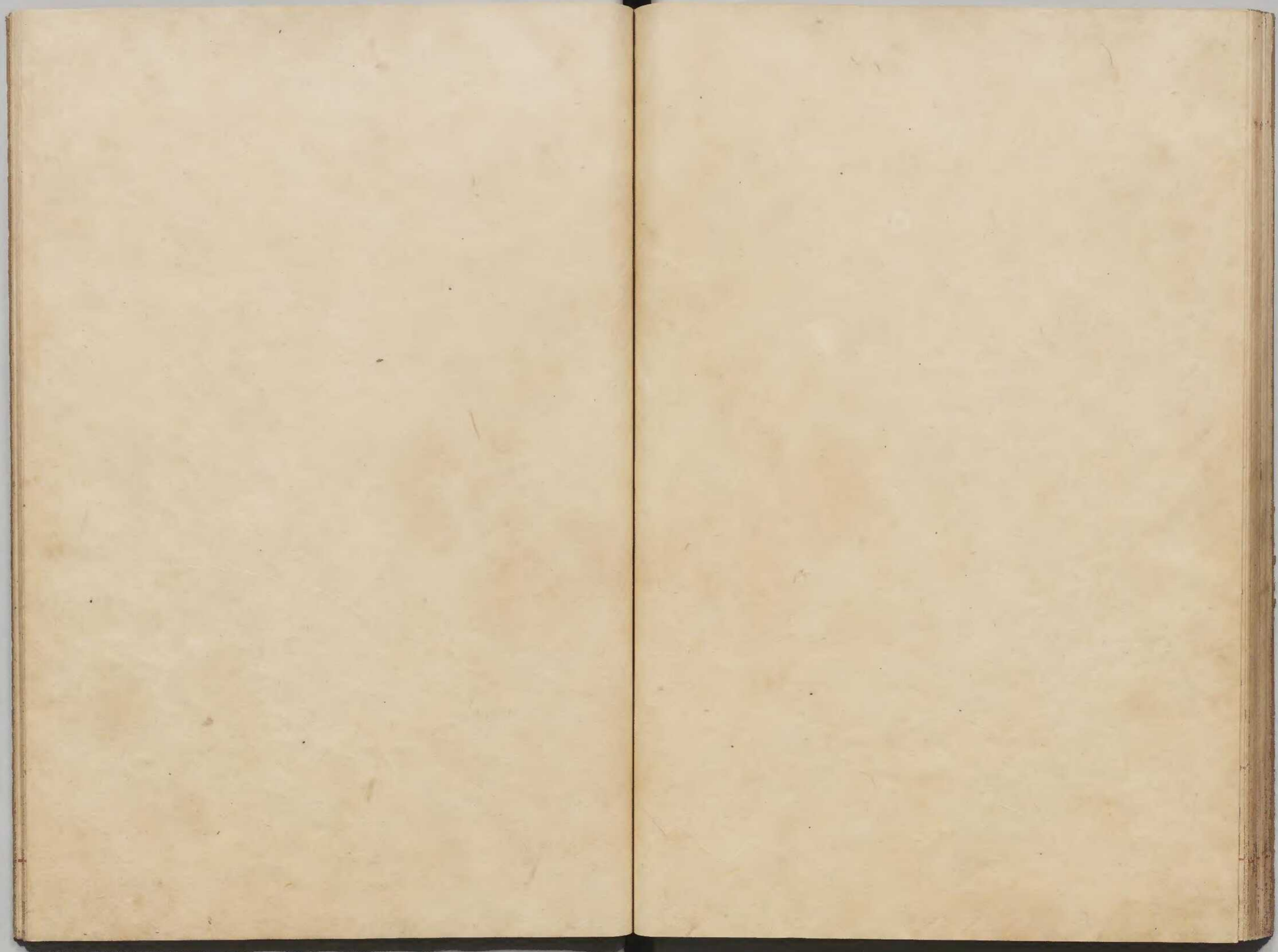
利綱

左馬

集回

將軍家一法之

家紋格授



政次 まさつぐ

長七郎

生息同前

利政 りせい

玄依守 げんいしゅ

生息同前

今川氏真小房 いまがわうぢまことこむら

揚矢 りや

大権現（石出）され物謂寸

元和四年正月十二日病歿七十歳（法名）
長宗

利通

長七郎

生国

台徳院殿小法（法名）

元和元年七月廿日病歿年廿九歳（法名）
道哲

利元

長七郎

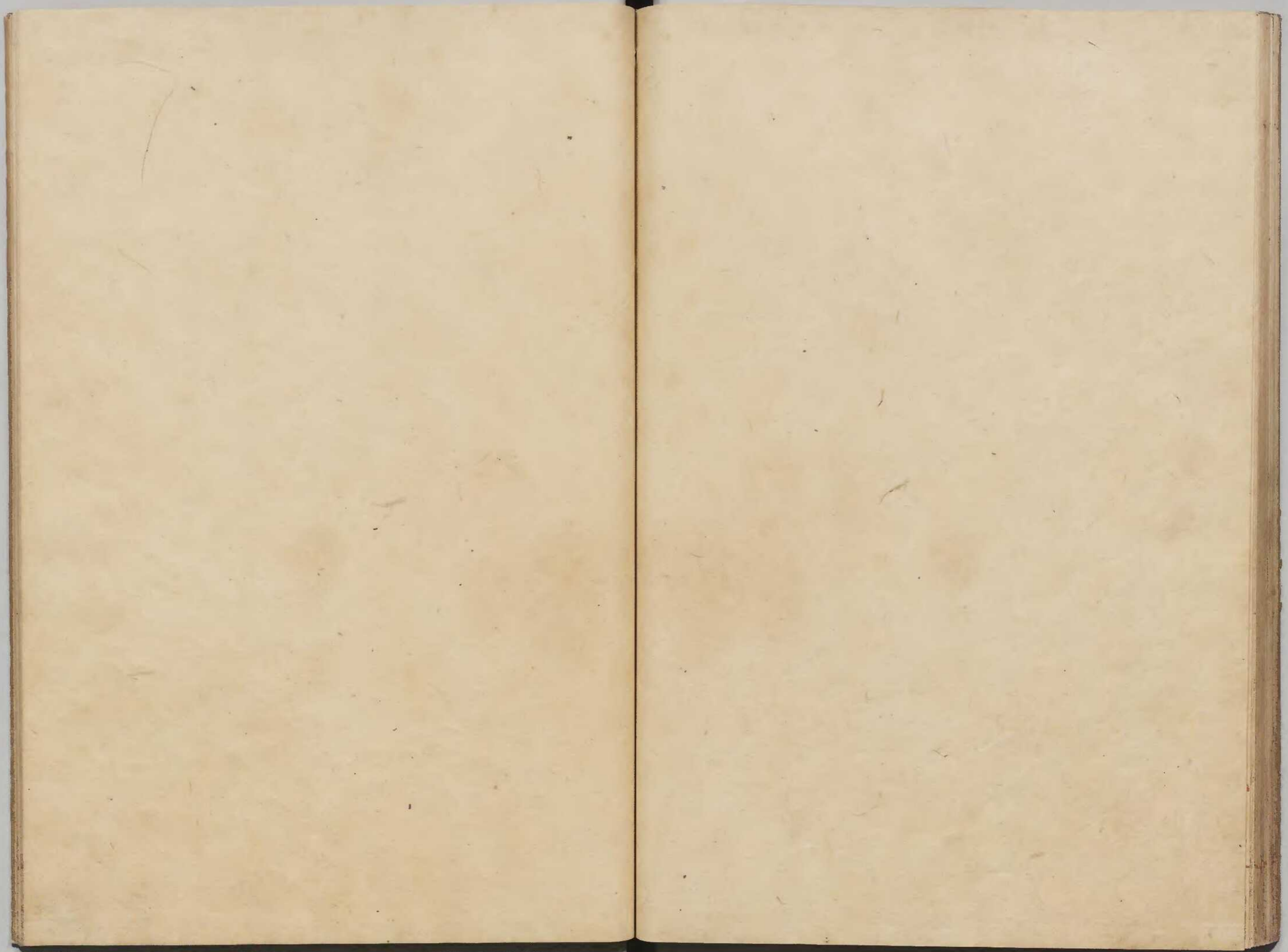
生武院

寛永三年八月廿日（初め）

將軍家（法名）

曰十二年十二月廿日（法名）
勤心

家致（法名）
鴻達



恒越

● 定久

依波守

生息上指新田

上指小泉城之富恩之税助小法子

七十八歳少く病死

定右

伊豫守 生目回あ

夏沼小大膳小吉こしげ

七十九歳少く病死 法名道喜みちき

定次さだつぎ

孫十郎 生目と野小泉のこいづみ

慶長七年夏沼小大膳死去の後

東照大権現と御湯みゆあり 沖小よりて

武列ぶりく忠乃ただの城番じやうばんと勤む

寛永二年より病小よりて隠居寸かくゑすん

定重さだしげ

市郎右衛門 生目武列忠たけりくちゆう

寛永三年忠乃城番と勤む

曰十七年江戸沖城沖番を法とむ

定正さだただし

五兵衛 生目回あ

寛永十一年 病小よりて忠乃城番と勤む

同十七年江戸御城に御番を勤心

家致丸の内波子島

吉明

しやうめい

久孫助
ひさのすけ

生玉同安

吉次

しやうじ

次更

生玉後列
しやうぎごり

東照大権現 (法切) 子孫

小泉

右
網

久
彌
助

生
武
荒

家
致
丸
の
内
小
と
母
の
蝶

竹尾 たけのお

三列竹尾乃在名を称號とす 三列 乃在名 稱號

系 系

三郎右衛門 三郎右衛門

生必三列竹尾郷 生必 三列竹尾郷

廣志郷小法也 廣志郷 小法也

東照大権現 東照大権現

元成 元成

清正

八歳のときついでに兼山やまの友小法師ともほうしの

大権現おほごんげん一室いっしつされお詣りまが寸

三十七歳さんじゅうしちさい少く病か死し法り名な西さい永えい

元次

清正

元道

依立よたて氏うぢ

依立よたて氏うぢ

寛永九年八月廿日

將軍家しやうぐんけ一法いっぽう思し入いそそまま川がわ名な

家紋いかりんかぐり行い掃はら車くるま

